

●今こそ「己に徹」する時、凛として(妥協を排して、気の緩みを排して、甘えを排して、冴え冴えとして、きりりと 等が類語)勝負する。

【1月行事予定 3年生関連】

日	曜	行 事	SC	食堂 パン
1	月	★ロッカー内の学習用具はすべて持ち帰っておこう		○
2	火	40分×4限 大掃除 午後検査場整備 13:00完全下校		
3	水	選抜(I) (生徒自宅学習)		
4	木			○
5	金	国公立大学(前・中・後期出願締め切り)	※	○
6	土			
7	日			
8	月			○
9	火	40分×4限 公開授業研究会(13:20~16:45)		
10	水			○
11	木	建国記念の日		
12	金		※	○
13	土			
14	日			
15	月			○
16	火			○
17	水			○
18	木			○
19	金	ノーチャイムデー	※	○
20	土			
21	日			
22	月	3年特別時間割授業終了		○
23	火	天皇誕生日		
24	水	(1、2年生考査週間)		○
25	木	国公立大学前期日程試験		○
26	金	国公立大学前期日程試験	※	○
27	土	卒業式練習・準備 火曜授業(40分×7限)		○
28	日			

【2月27日(土)の予定】40分授業

- 11:55以降登校(原則)
- LHR 12:40~13:20 受験体験記、受験レポートなど回収(記入)
- 同窓会入会式 13:40~
- 卒業式 練習(入退場練習、呼名など 流れ確認)~15:00 終了予定
- 15:00~ SHR アルバム配付など → 解散

国公立大学 前期試験まであと26日

できる! やりきる!

◆2年前あるクラスで、数年前に大学受験を経験したある先生から、貴重なアドバイスをいただきましたので紹介します。

●前期、後期ともA判定で同じ大学に出願。センター試験は、自己最高を得点し、最後の模擬試験から90点アップした。しかし、前期試験は不合格。

●不合格だった原因を自分なりに分析してみると……

- ①自分では緩んでいないつもりだったが、やはり「大丈夫だろう」という「気の緩み」があった。
- ②実は、記述力には自信がなかった。どのように対策を立てたらよいか具体的に分らぬまま、結局、先生のところに質問や相談をすることなく受験してしまった。
- ③判定が厳しくても合格した友人たちは、自分なりの学習方法を模索しつつ確立していた。

●どういう人が合格するのか。→ これまでのリズムを変えない人。これまで通りの生活を維持し続けた人。

【以上をまとめてみると】

①出願と合格は同じではない。共通テストだけでは決して逃げ切れない。

・「守り」の態勢に入ると、「合格」の可能性は下がる。「攻め」の気持ちを失わない。最後まで「挑み」「戦う」者であれ。

②「我流」の学習方法になっていないか、冷静に分析し、助言を受ける。

・自分の答案の「クセ」「弱点」は、自分では気づきにくい分、必ず、専門の先生のアドバイスを受け修正していく。特にすらすら答案が書けると思い込んでいる人は要注意。(例:どんなに書いていても設問の意図、要求からずれていたら0点なのです。)

・記述の答案を仕上げるのは、試験中に自分で添削しながら仕上げる。自己添削が甘くなっていないか、ポイントをどこまで押さえているのか、一から十まで指導を受ける時間はないが、一度はアドバイスを受けつつ、演習を重ねる。

・実は、自分の「クセ」「弱点」は、多くの受験生の「クセ」「弱点」でもある。

・合否を分けるのは「僅差」。わずかな修正を甘く見ずに答案を作成すべし。

・過去問題は一度やって終りにせず、繰り返しやる。同じ問題は出なくても、解答のプロセスには、大学ごとに傾向がある。解答を「仕上げる」「練る」繰り返しの練習が二次試験への自信になる。

③教室(周囲に他人がいる環境)で集中する訓練を続ける。

・長時間、人の気配を感じつつ集中する。試験会場本番を常に意識、想定する。

・二次試験の試験時間は120分、180分などが通常。集中力の持続、「体力」「耐力」が今こそ問われている。誰も見ていない場所で、2時間、3時間が、「真剣勝負」の時間に本当になっているのか、厳しく自分に問いかかけよ。

★ここまでくると、戦うべき相手が実は「自分」であることに誰しも気づきます。

・自信のない自分、不安に押しつぶされそうになる自分、つい妥協したくなる自分、過信して怠けたいくなる

自分、周囲ばかりが気になり集中できなくなる自分……

・負けずに頑張れ! 舟入3年生の一層の健闘を応援します。

・そして今 最も大切なこと…感染症対策の徹底。油断禁物。